

こぶしの風

(題字: 第二こぶし園 藤本真由美さん)

第24号

平成29年11月10日発行

発行: 社会福祉法人信濃こぶし会

広報誌こぶしの風編集委員会

〒399-3202 長野県下伊那郡豊丘村神稻4026番地1

電話 (0265) 35-8511 FAX (0265) 35-9016

E-mail: kobushi@dia.janis.or.jp

URL: http://kobushikai.or.jp/

柿取りの大きな力衆

取ったどー

おまつー

こぶし園の市田柿

ご注文お待ちしています。
注文、問合せ: こぶし園 TEL35-8573

目 次

法人化20年記念行事への準備	2P
福祉関係職員研究大会に参加	3P
法人化20周年 当時の思いを語る	3P
秋は行事がいっぱい	4・5P
細きよすが第11報「メダカの餌づくり」	6P
こぶし園・第二こぶし園・喬木事業所からのたより	6P
職場紹介② 利用者さんの横顔	7P
職員の素顔 職員の動き 編集後記	8P



作品:「刀(段ボール工作)」 グース: 平沢太一さん

安心して暮らせる地域をつくるために



信濃こぶし会は、平成9年8月13日に法人設立の認可をいただき、同年9月5日に登記を終え、社会福祉法人信濃こぶし会として新たなスタートを切り、以来今年で20年目を迎えました。前身のこぶし園の開所からは実に30年を経過しました。そこでこの20周年の節目を記念し、記念行事等を行うため、この10月から専任職員を法人本部に置き、準備を始めました。

記念行事は来年秋ごろを予定しており、式典や関連する催しのほか、記念誌の発行も予定しています。まずはどんな記念行事にするか基本計画作成のためのアンケート調査を始めました。また関連する資料収集も行なっています。

今までを振り返り、新たな発展に向けての意義ある記念行事ができますよう、関係する皆様のご協力をお願いします。

関係する資料収集のお願い

来年、秋頃に予定しています「20周年記念式典」開催に向けて、10月より進めていくことと相成りました。今後多くの方々にご協力を賜りながら、20周年記念事業を皆様と一緒に作り、盛り立て、成功しますようサポートさせていただきます。そこでまず、記念誌発行やパンフレット作製、DVDに使用する写真や新聞記事、ビデオ画像等を収集し、こぶし会の歴史（あゆみ）の情報提供をお願いしたいと思います。

ご家庭に眠っている貴重な資料を蘇らしてみてはいかがでしょうか。個人情報保護上、取り扱いには注意を払い、データ保管後、持ち主様に返却させていただきます。写真や資料に簡単な説明等も添えていただけるとありがたいです。

「こんなものは…」と不安な物でも、是非遠慮なく、こぶし園内法人本部にお持ちいただければ幸いです。なお、準備の都合上、H30年1月末日までとさせていただきます。

(担当 山口)

30年の主なあゆみ こぶし園開所～現在まで

- | | |
|---------|--------------------------------|
| 昭和62.1 | 共同作業所こぶし園開所 利用登録 11名 |
| 平成7.7 | 法人設立発起人会発足 |
| 平成9.1 | 法人認可申請 |
| 平成9.8 | 法人認可。第1回理事会で理事長に片桐秀人氏を選出 |
| 平成10.4 | 通所授産施設「こぶし園」開園 |
| 平成15.4 | 障害児学童保育（現グース）開設、生活支援センター施設取得整備 |
| 平成15.5 | グループホーム「ゆうハウスこぶし」竣工 |
| 平成15.6 | 居宅支援事業「ヘルパーステーション小川」開設 |
| 平成16.4 | グループホーム「さんらいす喬木」開所 |
| 平成16.7 | デイサービスセンター「ぼっぽ」開所 |
| 平成18.5 | グループホーム「いちょう」開所 |
| 平成19.4 | ぼっぽ 生活介護自立訓練多機能型に移行 |
| 平成19.10 | 第二こぶし園事業開始 |
| 平成21.4 | こぶし園就労支援事業に移行、グループホーム「小川ハイツ」開所 |
| 平成22.3 | 短期入所ぐーすか家開所 |
| 平成23.11 | 児童デイサービス「パドルダック」開所 |
| 平成24.4 | 相談支援事業所開所 |
| 平成24.7 | 児童デイサービス「アイビス」開所 |
| 平成25.6 | 居宅介護事業「すけっと」開所 |
| 平成26.4 | 第5ケアホーム「はびねす」開所 |
| 平成28.4 | 多目的利用施設建設「ハートスペース小川」「パワーすっぽ」開所 |
| 平成29.4 | 生活介護事業所ぼっぽの移転改築完成、事業開始 |



- | | |
|---------|--------------------------------|
| 平成21.4 | こぶし園就労支援事業に移行、グループホーム「小川ハイツ」開所 |
| 平成22.3 | 短期入所ぐーすか家開所 |
| 平成23.11 | 児童デイサービス「パドルダック」開所 |
| 平成24.4 | 相談支援事業所開所 |
| 平成24.7 | 児童デイサービス「アイビス」開所 |
| 平成25.6 | 居宅介護事業「すけっと」開所 |
| 平成26.4 | 第5ケアホーム「はびねす」開所 |
| 平成28.4 | 多目的利用施設建設「ハートスペース小川」「パワーすっぽ」開所 |
| 平成29.4 | 生活介護事業所ぼっぽの移転改築完成、事業開始 |



これからの福祉政策を見据えて 福祉関係職員研究大会に参加



こぶし園 サービス管理責任者

小木曽 優介

7月13日・14日の2日間に渡って「関東地区知的障がい福祉関係職員研究大会～千葉大会～」に参加させていただきました。会場には全国より障がい福祉に携わる、管理者～現場で障がい福祉を支えている様々な人が集まっていました。

私は、1日目に就労の分科会に参加し、平成30年度に総合支援法の見直しが行われ、超高齢化社会を目前に将来的には1人の高齢者を1, 2人で背負わなくてはいけない時代が来る。「働く力のある障がい者」は働くように就労支援事業所は取り組まなければいけない。障がい者の一般就労の定着率UP、離職率軽減、

事業所の平均工賃の大幅な引き上げを目的に、事業に対してメリハリをつけると厚生労働省の担当管より話がありました。

2日目は全体会で記念講話を聞きました。地域共生型福祉ということが法律で謳われたこともあり、今まででは各分野それぞれの法律や職員配置があったが、これらを統合していく流れとなってくる。高齢者、障がい者、子供に対しての福祉を1つの社会福祉法人で担っていく形になるであろうという話がありました。障がい福祉の分野はこれまで幾度となく制度を変え、現在の制度へとなりました。これからは福祉全体の形が変わっていくのだと思います。その変化の中でも「変わるもの」逆に「変えてはいけないもの」もあるかと思います。その「変えてはいけないもの」を大切に、これからの障がい福祉に臨みたいと感じた研修でした。

こぶし会法人化20周年 当時の思いを語る

子等の将来考え、資金調達に奔走



こぶし園初代保護者会長

林 武 司 さん

私がこぶし園との関わりを持ったのは、息子が企業から「面倒をみきれない」と言わされた時に共同作業所こぶし園に相談に行った時からでした。共同作業所は発足して数年経っていました。

当時は選果場の建物で豊丘中学校の卓球部と同居でした。冬は寒く、夏は汗びっしょりになったことも度々でした。作業は多種多様に行われていて、園生はみな和気あいあいとした楽しい所でした。職員の方々は大変だったと思いますが…

そんな中、この子達の将来のことを考えると法人化してしっかりとした組織にした方が良いとする意見と、今そのまま園生は楽しく通っているので堅苦しい組織にしなくとも良いとの意見で色々なことが話されました。結局、将来のことを思うと法人化にしようと決まり、準備にとりかかりました。平成6年9月のことです。

した。

当時の園長さんが設計士だったので、図面を引いてもらい、だいたいの建設資金が分かり、国・県と豊丘村の補助金などを足してもかなりの不足金が出ることが分かりました。

不足金（自己資金）を用意するには、法人化に向けての建設賛助会員を募り、協力をお願いすることになり、保護者が会員を募るために奔走しました。それでも目標金額には達せず、保護者が借入金をし補うことにして、平成9年8月、念願の法人化の認可をいただきました。この間、こぶし園代表者の方々には、大変ご苦労をおかけしました。平成10年4月、社会福祉法人信濃こぶし会「こぶし園」が定員20名で発足することが出来ました。

来年度は20周年のことです。発足当時とは思いもよらぬ発展、充実した法人となり、一保護者として、理事・評議員の皆様、そして何よりも職員の方々には心より感謝しております。

多彩なメニューでこぶしまつり 作品展示も充実

今年も「ゆめあるて」での開催となったこぶしまつりは、10月7日に利用者さんと職員だけでなく、多くの来賓と保護者の皆様にご参加いただき盛大な催しとなりました。

開会行事に続いて登場したのはアフリカン太鼓と踊りの「サブニュマ」の皆さんで、体の奥底まで響き渡るような音色と鼓動に、会場は総立ちになり、リズムに合わせて体を動かして踊り、思い切り楽しみました。

続いて登場したのはテレビなどでお馴染みのでんじろう先生顔負けのサイエンスショーグループ「わくわく」の皆さんで、液体窒素を使って様々な実験を行い、たくさんの不思議を見せてくださいました。これには会場の皆さん目が釘付け、驚きとビックリで本当にわくわくさせられました。

楽しみの昼食は、あゆみ園のおにぎりにいづみの

家のパン、紙ふうせんのから揚げ、さらにつきたてのあつあつ豚汁をいただきながら、大倉事務長が制作した園旅行のドキュメンタリーを楽しく鑑賞しました。午後は、お馴染みの地元のオーケストラ「よしみバンド」の演奏に合わせて皆で歌い、今年もこの日を迎えたことを改めて噛みしめられた気がしました。

最後の出し物は利用者の皆さんお楽しみの職員余興で、こぶし園の綺麗どころ男性職員と保護者代表の3人が「即興お着替え？変身！企画!？」にチャレンジしました。会場の皆さんは目が点になり大爆笑の嵐、大いに盛り上りました。会場狭しと展示された写真や作品も素晴らしい目を奪われるばかり、大盛況のうちにこぶしまつりを終えることができました。

(実行委員 河原)



ぽっぽあと展 美博で開催



10月3日から8日までの6日間、飯田美術博物館市民ギャラリーで、ぽっぽあと展「書ではなそう2017」

が開催されました。

今年で7回目となる美博での開催ですが、初めての秋開催ということで、秋らしい作品も入れながら、ぽっぽの皆さんの書と折り紙作品を飾りました。毎年来てくださる、ぽっぽあととのファンと言うお客様の「毎年楽しみにしています」との一言が励みになりました。期間中450人の来場者があり、にぎやかに終了することができました。

グースの夏祭りとハロウイン

グースの“ミニ夏祭り”は、パドルダックの利用者さん達も呼んで昨年より多い人数で行ないました。昼食のカレー作りに始まり、この日の為に準備

をしてきた水ヨーヨー屋さんや紐引き屋さん、スーパーポールすくい屋さん等の手作り屋台をお友達やスタッフと巡り楽しみました。カレーを食べた後は、bingo大会。豪華景品(?)に会場は大盛り上がり、最後は、定番のスイカ割りをして美味しくいただきました。



また10月31日には“ミニハロウィン”をしました。今年は利用者さんだけではなく、スタッフも魔女や悪魔など仮装をして行ないました。事務所・はぴねす・ぽっぽの各事業所を回り、みんなで『トリック オア トリート！お菓子をくれなきゃいたずらするぞ！』と声を合させて言うと、まるで事前に準備がされていたかのように(笑)1人1つずつにお菓子をいただきました。お菓子を沢山ゲット出来てみんな大喜びで「また来年もやりたいね！」と早くも来年のイベントの計画を立ててくれました。



すごいぞ!みんな芸術家!

パドル・アイビスの作品づくり



リボンフラワー

丸い枠に順番にリボンを掛け、ゆっくり丁寧に編み込んでいきました。



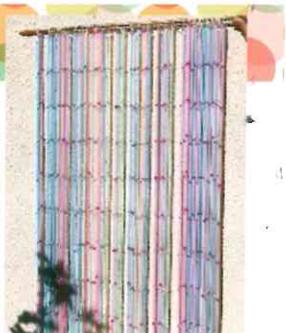
腹ペコあおむしモビール

同じ形に折った色紙を何枚も何枚も重ねて組み合わせました。



野菜スタンプ ピザ

ピーマン、ゴーヤ、オクラを輪切りにして絵の具を付けて押しました。



ストロービーズのれん

切ったストローと小さなビーズを交互に、細い糸に根気よく通しました。

旅行シーズン到来 こぶしとぼっぽの旅行記

4つのコースで実施

こぶし園・第二こぶし園の旅行は4コースに分かれて実施しました。今回は9月7～8日の中京方面コースの紹介です。

バスの中では、旅のクイズで知識を学び、明治乳業の「なるほどファクトリー」では、牛乳やヨーグルトを作っている工場で乳しづり体験をし、東山動物園では、今人気のイクメンゴリラと初対面、たくさんの動物たちに会って癒されてきました。



2日目は初めての3グループに分かれての行動となり、レゴランドは、日本各地の観光地やランドマークを、ただ建物の形だけでなく細かいロゴまでも再現していました。特にナゴヤドームは、観客席がミニフィグで埋め尽くされており、今にも応援歌が聴こえてきそうなほどで中日ファンは大喜びでした。

長島スパーランドは、天気も良くそれぞれの乗り物を楽しみ、スリル&スピードジェットコースターは、「とても怖かった！」と。

劇団四季は、まず沢山の観客に圧倒され、最初は緊張しましたが、リトルマーメイドの楽しい劇では最後に王子様と人魚姫が結婚したシーンにとても感激・感涙し、また観たいと言う方が多数で良い思い出になりました。

クイズ・カラオケ・水族館を満喫

ぼっぽの今年の旅行は、9月15日に岐阜県にある淡水魚水族館アクアトト岐阜へ行ってきました。バ

スヘ乗り込む前から、皆さんが早くも笑顔で、行きのバスの中は、恒例の珍問難問〇×クイズで大盛り上がりでした。



昼食を食べ、お土産を買ってから班ごとに館内見学へ。ゾウガメ・ピラルクー・大なます、両生類や爬虫類にカピバラと

様々な生き物たちに出会い、驚きと興奮の連続でした。

広い館内を見学して、疲れていたはずなのに、帰りのバスの中ではカラオケを熱唱。最初から、最後まで笑顔の絶えない旅行でした。

チームワーク最高

ゆうあいレク

9月22日、第11回飯伊地区ゆうあいレクリエーション大会が勤労青年体育館にて開催され、こぶし園・第二こぶし園から50数名が参加しました。

何が始まるのか少し不安もありましたが、最初の競技である大玉送りが始まると笑顔で大盛り上がり。その様子を見た職員の一言「こぶし園の利用者さんは若いなあ！」それ程、どの競技にも皆さん楽しそうに参加して下さいました。自分以外の競技をしている時は「頑張れー！」の応援。チームワークも素晴らしいかったです。



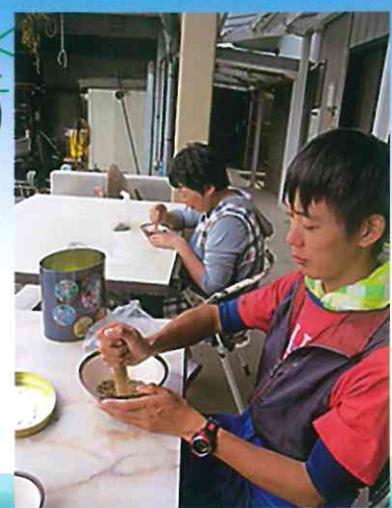
午後には下條村「カッセイカマン」登場。ヒーローの活躍に大歓声。ジャンケン列車では、他事業所の方との交流も楽しみました。体を動かして、力を合わせて、笑顔いっぱいのゆうあいレクとなりました。

細きよすが第11報

「メダカの餌づくり」

こぶし園のメダカ販売の歴史は古く、十数年前にスーパーバイザーとしてご指導くださっていた佐々木健司先生の肝いりで始まりました。千駄木の休耕田に作られた養殖池で繁殖させたメダカをビニール袋に入れ、酸素を入れて販売してきましたが、昨今のメダカブームで注文に追いつかないほどです。

さらに近年は、白・青・朱などのカラーメダカをオールシーズンで販売しています。これに伴って稚メダカ用の餌の需要もあり、すり鉢にて細粒化し小袋に詰めて販売しています。



こぶし園

念願の柿ハウス完成



こぶし園・第二こぶし園の主力製品の一つである「市田柿」これまで外部のハウスを借用して柿の乾燥工程を担ってきましたが、このたび2棟のビニールハウスが立派に完成しました。

こぶし園の「市田柿」もベテラン農家のご指導をいただきながら、年々品質が高められ、多くのお客様に喜んで頂けるようになりました。最近では地域を挙げてのブランド商品化として、日本はもとより海外に向けて広く知られるようになった市田柿です。

新たに設置されたビニールハウスは、立地・環境条件に大変優れ、これまで以上に良質な製品化に向け、大きな力になりそうです。今年も一つひとつ手作業によって大切に作り上げます。是非、多くの皆様に、ご賞味いただきたいと思います。

第二こぶし園

宿泊体験で新たな可能性を

この「宿泊体験事業」は、家庭を離れより自活の力を養うことを目的とし、こぶし園開所当初から取り組んでいます。

初めて親元を離れ寝泊りすることに不安を抱きながらも、気心知れた仲間や支援者と、買い物から夕食作り、食器の片付け、お風呂に掃除…、自分の力を最大限活かしながら2泊3日（1泊2日もあり）を体験して頂きます。あるお母さんからうれしいお話を聞きました。

しました。「うちの子は家では料理なんてしたことないのに、宿泊体験から帰ってきたあとお米を研いでくれました。こんなにうれしいことはなく、有難くごはんを頂きました」と。



共同生活を共にした仲間や支援者から自身の実践を褒められ、認められ、大きな自信となり、さらにお家の方々にも喜んでもらえる、まさにプラスの連鎖が連なりました。

宿泊体験をもとに、新たな可能性を見出し、より高い生活力を養えるきっかけになればうれしいです。

喬木事業所

地震による火災を想定し

9月7日に喬木事業所の避難訓練を行ないました。今回参加したのは、事務所職員、ヘルパーステーション、グースの職員と利用者の皆さんで、地震による事業所内からの火事を想定した訓練を行ないました。

実際に起きたかのような緊張感の中、職員からの指示をしっかりと聞いて、すぐに机の下に隠れ慌てる事なくヘルメットを装着し素早く外へと避難が出来ました。いつ何時にこういった災害に遭うかはわからないので“備えあれば憂いなし”日頃からも意識することが大切だということを実感しました。





ヤクルト配り「お元気ですか？」 第二こぶし園 ヤクルトサービス事業



「こんにちは！こぶし園です。ヤクルトを持ってきました。」毎週水曜日の光景です。

第二こぶし園では『ヤクルトサービス』と呼ばれる活動があります。これは、豊丘村社会福祉協議会より委託された事業で、村内に住む独り暮らしの高齢者を、安否確認のため訪問しているものです。

この事業は、こぶし園が設立された当初から続く伝統ある活動で、設立当時は佐原地区のみの訪問でした。その後、事業の見直し等で拡大し、現在はこぶし園を中心に“北ルート”“南ルート”合わせ、50件ほどのお宅を訪問するまでになりました。

また、平成28年度からは、「高齢者見守り事業所」の一つとして、地域包括の一役を担う事となりました。

「こんにちは！
こぶし園です。ヤ
クルトを持ってき
ました。」毎週水
曜日の光景です。

第二こぶし園で
は『ヤクルトサー
ビス』と呼ばれる活
動があります。これは、
豊丘村社会福
祉協議会より委託さ
れた事業で、村内に住む
独り暮らしの高齢者を、
安否確認のため訪問して
いるものです。

「住み慣れた土地でいつまでも自分らしい暮らしを続ける」という目標のもと、高齢者の変化をいち早く察知し、情報共有の強化へとつなげます。毎回、天気の話や身内の話、世間話で盛り上がります。そして最後は握手。

「(ヤクルトを)持ってきて
くれて、ありがとうね。」



人事異動をお知らせします

● 7月1日付

- ヘルパーステーション小川管理者 片桐秀人
- 本部事務長・共同生活援助事業所管理者 大倉淳司

● 10月1日付

- ヘルパーステーション小川管理者代理・喬木事務所事務員 久保田富子
- 20周年記念事業特命担当官・本部事務員 山口 瞳
- ヘルパーステーション小川サービス提供責任者・共同生活援助事業所主任支援員 春日恵子

● 9月30日付退職 アイビス看護師 吉川貴子

利用者さんの横顔 アイビス つつい はるか 筒井春夏さん



いつも喜んで通って来てくれる春夏さんは、飯田養護学校の6年生です。

お洒落でキュートな笑顔、物静かな中にユーモアたっぷりの表情を見せ楽しませてくれます。最近身長が伸びたと感じ、隣に並んでみると腰の位置の高さにピックリ!!長い脚!!羨ましい限り。メロディー絵

本を並べて鼻歌を口ずさみ気分上々。幸せそうな笑顔を見せてくれています。絵を描くことも大好きで、ランドセルの中には綺麗に色塗りされたキャラクターの絵が大切に入れられています。

春夏さん!!これからも素敵なスマイル見せてくださいね。よろしくお願ひします。

ほっぽ 松下 良さん

誰にでも、丁寧なあいさつを忘れない礼儀正しい松下良さんです。

縫い物中心の活動をされ、「ぽこハート」というハートの形をした竹炭入りの製品を作っています。

また、ムードメーカーでもある良さんは、カラオケも大好きで、瀬川瑛子さんの「命くれない」や氷川きよしさんの「きよしのズンドコ節」が十八番。特に「ズンドコ節」が始まると、周りから手拍子と「ズン♪ズンズン♪ズンドコ♪良さん」と合いの手が入ります。

ぽっぽ利用日以外は、デイサービスも利用しています。なんとそのデイにはイケメンさんが、2人も居るとか…羨ましい限りであります。



職員の素顔

アイビス 池田よし子(管理者)



よし子先生ってどんな人？利用者の皆さんに聞いてみました。

いつも笑顔でよく笑う、優しくていい人、回遊魚みたいに動き回って止まると死んでしまいそう、何でもやる人、パドルダックを守つ

てくれる、スタッフを引っ張ってくれる、みんなの為に責任を取ってくれる人。

●よし子先生にインタビュー

- Q 休日は何をしているの？ A 掃除洗濯 潰物作り
- Q 趣味は？ A 草むしりとお花の世話
- Q パドルの人をどう思っているの？ A 大好きです
- Q 勉強は好きですか？ A 大嫌い でも読書は好き
- Q みんなに一言 A 出来る事をたくさん作ってください！

職員の動き



ステーション
ヘルパーST
(支援員)
村山聖史

6月からヘルパーステーション小川で、月に4～5日ほど働かせてもらっています。普段は、他の施設で子どもたちの面倒を見ています。

仕事を掛け持ちしてやっていくけるか不安でしたが、他のスタッフの方々にも親切にしてもらい安心して働かせてもらっています。

これからも気を緩めずに努力して、利用者さんにもスタッフの方にも頼られるようになりたいです。



ホーム
グループH
(支援員)
島岡笑子

6月より、グループホームはびねすでお世話になっております島岡笑子です。

若い利用者さんと関わりながら、日々勉強させていただくことばかりです。コミュニケーションをとりながら、職場の皆さんに助けていただき、少しでも信頼される支援員、世話人になるように頑張ります。

今後ともよろしくお願い致します。



ぽっぽ
(支援員)
宮沢智美

5月からユアサポートぽっぽで、お世話になっております宮沢智美です。

以前は専業主婦をしており、7年間の仕事のブランクがあり、最初は不安でいっぱいでした。しかし、今は少しずつ仕事にも慣れ、皆さんとの何気ない会話や関わり合いの毎日が楽しいです。

皆さんに『今日は楽しかった』と言って頂ける様に日々頑張っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いします。

編集 後記

近年感じていることの一つに、香りの変化があります。以前は、わずかな香料でも気になり、遠ざけていたのに今現在、かなりのアロマオタクです。ちなみに今、一番好きな香りは？と聞かれたら…赤ちゃんの甘くて優しいにおいかな。それもあり？笑…

(北澤優子)

職員の素顔

ぽっぽ 宮沢孝明(管理者)

渓流釣り、野菜作り、こんにゃく作り、英会話など下手な横好きと言うか、今までいろいろなものに手を出してきましたが、モノにならないまま今日を迎えています。その中で唯一続いているのが登山です。27歳の時から始めて今日まで、40年続いています。



今まで登った山は、北海道から屋久島まで、日本百名山を踏破したのを始め、富士山から日本で一番低い山（徳島県の弁天山。標高6.1m）まで、春夏秋冬、約650山を登りました。歳と共にそのペースは落ちていますが、これからも体力に合った山に登り続けたいと思っています。今はその時間が生み出せないのが、何よりの悩みの種です。

